看護診断	
# 2 左麻痺・せん妄に関連した転倒・転落の危険性	
期待される効果	
1. 転倒・転落を起こさない 2. 麻痺の程度を自覚し、自ら危険回避行動がとれるようになる 3. 座位保持や、車いす移乗に必要な筋力を保持することができる	
看護計画	
O-P (観察計画)	1. 関節可動域 2. MMT 3. 機能訓練状況 4. 機能訓練に対する思いや、自信度 5. 環境危険因子の有無（車椅子の位置、履物、挿入物など） 6. 認知機能 7. 危険回避についての知識・行動 8. 精神面の変化 9. 夜間の睡眠状況、眠剤服用の有無
C-P (ケア計画)	1. 疲労度に合わせたベッド上での関節可動域訓練を行う（パンフレット参照） 2. ベッド上での筋力保持訓練（パンフレット参照） 3. ベッド上の環境を患者自身で確認し危険回避行動がとれるよう声掛けを行う。 4. 各勤環境整備を行う。 5. 日中の覚醒や離床を促す 6. 表情を観察し、不安を感じていることなどを引き出し、丁寧に対応を行う。 7. 機能訓練状況の確認や OT と情報共有し、機能回復状況にあわせた ADL 介助を行う 8. 移乗動作の際、足の位置やベッド柵の把持の位置を確認し、また本人にも意識してもらいながら介助を行う。
E-P (教育計画)	1. 関節可動域訓練や、ベッド上での筋力保持訓練の必要性と方法について、パンフレットを用いて説明する。 2. 1日の予定について、毎朝患者とともに計画をたてる。 3. ベッド上の環境や、行動で危険があれば支援を行う。